

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100768		
法人名	有限会社おおいし		
事業所名	グループホーム くつろぎ 2階		
所在地	釧路市愛国西2丁目7番10号		
自己評価作成日	令和 5年 3月 20日	評価結果市町村受理日	令和 5年 6月 20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100768-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは、いわゆる「施設」では無く、普通の「家」であるということを基本としている。自宅と違い、多少の制約はどうしてもあるが、起床時間や就床時間、食事時間等は一律とは考えていない起きるのが遅ければ朝食が遅れるのは当たり前前で、自室内で夜中にテレビを観ているも制止しない、寝るときは寝間着着用ということも、寝間着着用の習慣がなければ服だったり、シャツだったりでの就寝もあり、喫煙者は決められた場所(決められた時間にはなるが)での喫煙が出来る。飲酒についても可能とし、入居前の生活の継続を基本としている。他者とのトラブルにしても暴力に発展しなければ様子を見ている。どんな生活場面でも多少のトラブルがあるのも当たり前と認識し、人間の感情「喜怒哀楽」を大切にしている。機能低下予防として特別なリハビリ等はしていないが、食器拭き・タオルたたみ・郵便物受け取り・回覧板届け等の日常生活の動きや、自転車修理業だった入居者に車いす点検をお願いしたりと機能維持へ繋げている。特別なことはしていないが、当たり前の日常生活をおくって頂き「喜怒哀楽」の感情の表出も必要だと考えて支援している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和5年5月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2階 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に短時間のオリエンテーションのみでの説明にとどまり、理解されていない職員がいて共有されているかには疑問が残る		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会はしているが、コロナ禍にて回覧板や古紙回収のみでの町内交流となっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に活かす場面无い		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	元々、参加者が少ないうえに、コロナ禍で書面開催となっており、活発な意見交換には至っていない		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム長・管理者・ケアマネが窓口となり相談したり、助言をいただいたりしている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由を奪うような対応はしていない、只、拘束か否かの境界線があやふやな職員もいるとは思われるのでお互いに注意しあって身体拘束をしないケアに努めている。プリント配布にとどまっているので対面での勉強会が必要とは思		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は設けられていず、プリント配布に留まっている。日頃から、お互いが注意しあい、身体的精神的変化には日頃から注意しあい虐待とならぬように取り組んでいる		

グループホーム くつろぎ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	何年も前に外部講師を招いて説明して頂いたことはあるが、かなり前なので学んでいないのと同じだと思う。2階には後見人が必要となったケースが無いので後回しとなっている感はぬぐえない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけて説明をして理解・納得を頂くようにしている。入居後もコミュニケーションをとり、いつでも質問や相談への対応をしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に外部苦情窓口を明記し、説明もしており、玄関の外に意見箱も設置しているが、直接口頭で伝えてくださる方が殆どで、受けた時には会議などで検討している		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に話が出来る状況で、日ごろから話をしたりして必要時には代表者・ホーム長・管理者へも話が届いている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の就労条件を可能な限り受け入れている。只、人手不足、人材不足で整備が追いつかないこともある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量は把握されており、個々にあった指導をしている。プリント配布はされているが外部内部ともに研修はコロナ禍にて難しかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍と職員不足で出来ていない		

グループホーム くつろぎ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は声掛けを多くしながら、ご本人の生活ペースや希望意向等を把握するようにして、ご本人がホームに早く馴染めて自分の生活スタイルを構築出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や申込時に家族が心配されている事など聞き取りし、入居後も電話や訪問時聞き取りするよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実費ではあるが、ベッドのレンタル、受診時の介護タクシー利用、訪問看護、往診居等を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理強いすることなく、食器拭き・タオルたたみ・車いす点検等お願いしたり、同席者の下膳や、1階への昼食コールも依頼している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍であってもご家族(キーパーソン)の訪問を絶つことなく、道外からのご家族も検査等をお願いして受け入れていた。また、遠方の家族には毎週土曜日に電話をかけて頂き本人と話をしてもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みは大切だと認識し、外出や家族来訪依頼等力を入れていたが、コロナ禍にて出来ない。手紙のやりとりは継続している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性等を考慮しての食席、同席者の食事時のおしぼりの用意等して頂いている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ前は入院や他施設に入所された方へ面会もしていたが、コロナ禍で出来ない。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	就寝・起床・食事の時間を一律との菅家は持たず支援している。		

グループホーム くつろぎ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らし方の継続を一番に考え、昼頃まで寝ている人もいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本情報・本人の言動・家族からの情報から把握に努め、記録しながら職員の情報共有に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の入れ替わり、人手不足もあり一部職員のみでの介護計画作成となっていたが、アセスメントを全員でとることを始めたばかりである。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や入居者の言動、気づき等記載し、申し送り時の口頭でのやりとり等でも共有し、日頃のケアは勿論介護計画に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時の付き添い、タクシーの手配、買い物代行は勿論だが、コロナ禍での遠方の家族の来訪も受け言れた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で回数は激減しているものの外食・美容院へ行く等の支援をしていた入居者もいた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の医療の継続を基本とし、時には往診医への変更の勧め等も話している。受診時には手紙を書いたり、付き添いの方に口頭で伝えたりしながら情報の共有は出来ていると思われる		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム契約している訪問看護師や個人契約の訪問看護師には、日々の本人の状態やm心配事等を伝えている。訪問看護師からの助言で入院に繋がったこともある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族からの情報や直接病院に問い合わせたりしていたが、コロナ禍は難しかった。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃の会話の中から意向をくみ取るようにはしているが、確認できないことも多く、主に家族の意向が優先されている。契約時に説明し、状態変化を細かく伝え、医師が判断した時に看取り契約と段階的に行い、その都度介護計画を作成してチームとして取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるものの、訓練はしていない。何かあれば管理者・夜間担当者へ連絡し指示受けしている状態である。個々の実践力は身に付いていないと思われる		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	職員不足やコロナクラスター発生、又、入居者の精神的状況により大々的な訓練は出来ていない。マニュアルはあるが身につけているとは思えない		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何度も同じ話を繰り返す方には他者に聞こえないように自室で話をさせて頂き、その時々言葉かけ等も考慮しながら対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言動からくみ取ろうと努めてはいるが、思いを表出する人は少ない。「どちらにする」と選択できるような声掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事時間は一律と考えない、入居前の生活パターンを変えないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や靴等の買い物代行が多い、その時は本人の好みの色や形、等考慮し、着易さ履き易さ等も考慮している。以前、マニキュアもしたことがある。		

グループホーム くつろぎ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で減ってはいるが、見た目を楽しめたり、焼きそばや焼き肉、お好み焼き等目の前で料理をしたり、餃子づくりや稲荷ずしを一緒に作ったりしていた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量・柔らかさ・大きさ・食器等、個々にあようにしている。手が不自由で箸を上手く使えない方には手づかみで食べられるよう工夫したりしている。摂取量の記録をして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にお茶を飲んで頂き、毎食後のうがいや口腔ケア用品を使用してケアしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	要介助者であっても、紙パンツやパッドを使用している方でも、全員トイレ使用しており、失敗はあるもののトイレでの排泄が殆ど。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品使用や食材の検討をしながら自力排便に繋げている。現在は腸閉塞を繰り返す方のみ定期的に座薬を使用している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決めているものの、意向や隊長によって変更したりと臨機応変対応している。浴室で歌をうたったり、話をしたりとしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	畳やソファで横になれる人がいるのでクッションや座布団を用意した。寝具の選択、照明の明暗などに留意しながら支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に処方されている薬名・効用等がわかるようにファイリングして誰もが直ぐにみられるようにしている。変更や観察ポイント等があった時には記載と申し送りもしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方は家事、自転車修理業だった方には車いす点検、外食が好きな方は外食に行く、歌が好きな人の為にカラオケ等している		

グループホーム くつろぎ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援を大切なことととらえて、支援してきたがコロナ禍で思うようには出来ていない		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している人が少なく、外出していないので使う機会もなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日頃から受け取ることが多いが、希望時には電話もかけている。手紙も返事を書くように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スペースが限られているなか、個々人の動きの妨げにならないように、家具の配置を工夫し、季節ごとのポスターや飾りつけをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係などに考慮して工夫をしている。長年生活していると自分の座る場所が決まってくるので尊重しつつ皆がくつろげる空間に努めている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面などから撤去したものもあるが、写真があったり、ぬいぐるみがあったりと家族が本人のことを考えて用意したり、持ってきてくれたりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやふる場等、それとわかるように大きく表示し、フロアの時計を増やしたりしている		